

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられる皆様へ

本院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない患者さんもしくは患者さんの代理人の方は、下記の連絡先までお申し出ください。

1. 研究課題名	エストロゲン受容体陽性乳癌の若年性患者に対する妊孕性温存を考慮した内分泌療法の治療戦略		
2. 対象患者	2005年1月から2018年12月まで当科で初回手術を施行したエストロゲン受容体陽性の原発性乳癌745例。		
3. 対象となる期間	平成17年1月1日 ~ 平成30年12月31日		
4. 実施診療科等	乳腺外科		
5. 研究責任者	氏名	山崎 慶介	所属 弘前大学医学部附属病院 乳腺外科
6. 共同研究機関 (共同研究機関研究責任者)	なし		
7. 研究の意義	大規模臨床試験の結果、内分泌療法がより長期間に行われるようになってきました。治療成績が向上する反面、長期間の内分泌療法は若年性乳癌患者にとっては妊孕性の逸失につながる可能性が高くなっております。今後乳癌患者の生命予後を確保しながら、術後の内分泌療法の短期投与や無治療などの妊孕性を温存する治療法を検討する必要があります。		
8. 研究の目的	対象患者さんの診療録より、臨床所見、手術所見、病理所見、挙児希望の有無、術後治療内容などを検討し、挙児希望があるエストロゲン受容体陽性乳癌患者さんのより適切な治療法について明らかにすることを目的とします。		
9. 研究の方法 (使用・提供する資料等および外部に提供する場合は方法等)	2005年1月から2018年12月まで当科で初回手術を施行したエストロゲン受容体(以下、ER)陽性原発性乳癌745例を対象としました。若年性乳癌の定義は35歳以下の症例としました。年齢、出産の有無、出産数、挙児希望の有無、病理結果、術後治療内容などの情報を利用し、統計学的手法を用いて関連性を見出し、若年性乳癌の特徴と挙児希望のあるER陽性乳癌患者さんのより適切な治療方針について明らかにします。		
10. 個人情報の保護	患者さん個人が特定される情報を公開することはありません。研究結果は学会等で報告されます。拒否の申し出があった場合は、研究対象から除外し、データを削除致します。ただし、既に匿名化のうえ解析済みの場合や、研究結果公表済みの場合は、データを修正することは出来ませんのでご了承願います。		
11. 利益相反に関する状況	利益相反はありません。		
12. 連絡先	弘前大学医学部附属病院 乳腺外科 山崎慶介		
	電話	0172-39-5079	FAX 0172-39-5080